

道徳だより

令和7年10月
七塚小学校
校長 奥 健一
6年生担当

今回は、6年生の授業の様子についてお伝えします。

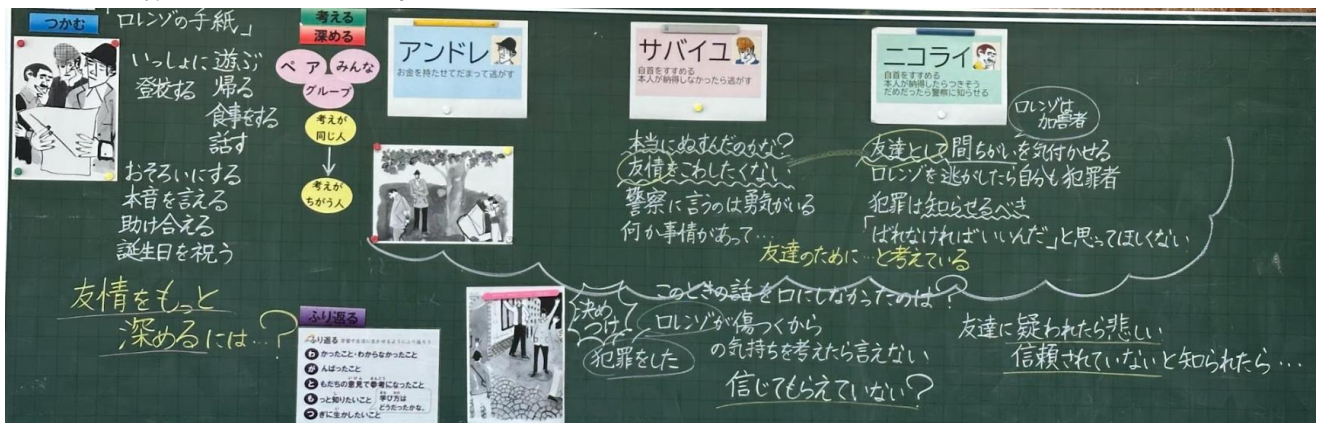
主題名：友を信じる 教材名：「ロレンゾの手紙」

《ねらい》

互いに信じ合い、相手の気持ちや立場を考え、自分にできることをしようとする心が友情を育むことに気づき、互いに信頼し、友情を深めようとする心情を育てる。

《あらすじ》

ある日、20年ぶりに故郷の友人に会いたいというロレンゾの手紙を、アンドレ・サバイユ・ニコライの3人が受け取ったところから始まる。手紙の内容は「明後日の18日夕刻に、思い出の榎の木の下で20年ぶりに会おう」というものだった。その手紙が届いた3日前、ロレンゾが働いていた会社の金を持ち逃げしたという話を刑事から聞く。3人はロレンゾに対してどうすればよいのか、それぞれに考える。アンドレは「お金を持たせてだまされて逃がす」、サバイユは「自首をすすめるが、ロレンゾが納得しなかったら逃がす」、ニコライは「自首をすすめ、ロレンゾが納得したら付き添うが、そうではなかったら警察に知らせる」と考えていた。3人はロレンゾの対応に悩み、葛藤していたが、待ち合わせ場所にロレンゾは現れなかった。翌朝、3人は警察署から呼び出され、そこでロレンゾと再会し、ロレンゾが無実であったことを知る。3人が警察を信じて、ロレンゾの対応について悩み、話し合ったことについては誰も口にしなかった。



「友情をもっと深めるために大切なことは？」をテーマにして授業を進めていきました。3人の考えの中で共感できる考えについて議論しながら、「友達としてどうすべきなのか。」ということを話し合いました。警察に知らせることで友情が壊れるのではないかと、警察に知らせることも勇気がいることだという意見や、友達として間違いを教えることが必要であり、ロレンゾを逃がしたら自分も犯罪者になってしまうという意見がでました。3人が悩んだり葛藤したりしたことをどうしてロレンゾに話さなかったのかについて考えることを通して、友情をもっと深めるために大切なことについて考えを深めていきました。

《子供たちの振り返り抜粋》

☆友情には信じることも間違いを正すことも必要だし、結局は信頼がないと友達としてどうなのかと疑ってしまうので、信頼することが必要です。

☆友情をもっと深めるためには言われてうれしいこと、友達が傷つくようなことは言わないことが大切なのだと思います。

☆ダメなことはダメと言える友達でありたい。でも友達が絶対やったと言えるわけでもないから決めつけはよくない。

☆友情をもっと深めるには信頼関係を大切にして友達としての在り方を考えることが大切だと分かりました。